

世界最大級の「モントルー・ジャズ・フェスティバル」。初めて日本であったピアノ・ソロ大会に挑戦し、ファイナリストとなった。1位だけに与えられるスイスでの本大会（2015年夏）出場は逃したが、「都会や海外で活躍する出場者のなかで、鹿児島にいなから世界に挑戦できると証明できた」と語る。

鹿児島にこだわり、ジャズピアニストとして活動を続けてきた。30歳になった14年は節目の年ととらえ、音楽事務所を設立。5月からは月1回、

### 世界を目指すジャズピアニスト

# かお

まつもと けいし  
松本 圭使さん



肥薩おれんじ鉄道の阿久根駅で無料のジャズライブをプロデュースし、出演している。人脈を生かして招くプロによるライブは音楽ファンや地域住民らに評判で、リピーターが増えつつある。

20代前半のころに音楽界の地下鉄の風景が、構想の原点だ。「オーディションで選ばれたプロが各駅で演奏を披露していた。鹿児島でもやってみたいと考え続けていた」クラシックピアノを3歳のころから学んだ。鶴

丸高校に入学後、音楽に専念するため1年で中退。同級生と結成したポップスバンドでキーボードを担当していた時、「演奏がジャズっぽい」と言われ、ビル・エバンスのCDを手にしたのが、ジャズとの出会いだった。「妥協のない音楽を届ける」が信条だ。

最近、鹿児島大学の学生にも指導している。「若い世代に元気があれば鹿児島のジャズシーンが勢いづく。自分の音楽性もさらに高めたい」。薩摩川内市出身、鹿児島市在住の30歳。（福留梓）